

# 平成17年度病害虫発生予察注意報第2号

平成17年8月1日  
鳥取県病害虫防除所

## 注意報の概要

斑点米の原因となるカメムシ類が水田周辺のイネ科雑草地などで多く発生しています。今後、カメムシ類が水田へ移動することにより、斑点米が多発することが懸念されます。穂揃期から乳熟初期のカメムシ類の防除を徹底しましょう。

## 病害虫名：斑点米カメムシ類

- 1 対象作物 イネ
- 2 発生地域 県下全域
- 3 発生量 多い
- 4 注意報発令の根拠

(1) 水田周辺のイネ科雑草地では、アカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ、ホソミドリカスミカメ類、ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシなどが発生している。

7月中旬現在、捕虫網5往復10回振りすくい取り調査すくい取りの平均成幼虫数は154.2頭であった(表1)。これはカメムシ類による斑点米の発生が多かった平成10年～14年と同程度の発生密度である。

(2) 7月下旬現在、すでに穂揃期を迎えた水田における捕虫網25往復50回振りすくい取り法による平均成幼虫数は27.9頭で多発生となっている。また、要防除水準(4頭以上)を超える水田は70%と多数となっている(表2)。

(3) 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されており、出穂期を迎える水田でのカメムシ類の増殖およびイネへの加害活動に好適な条件となっている。

## 5 防除上注意すべき事項

(1) 水田周辺の雑草地・畦畔などのイネ科雑草はカメムシ類の増殖源となるので、適期の除草が重要となる。7月下旬～8月上旬に出穂期を迎える水田地域で、出穂20日前頃に草刈りを行ったほ場では、再生したイネ科雑草が穂をつける前(水稻の出穂期頃)に再度草刈りを行う。また、7月下旬～8月上旬に出穂期を迎える水田地域で、出穂20日前頃に草刈りを行っていない場合は、穂揃期から乳熟初期に草刈りを行い、草刈り後直ちに防除する。

(2) 8月中旬頃に出穂を迎える水田地域では、出穂20日前頃に1回目の草刈りを行い、その後、再生したイネ科雑草が穂をつける前に再度草刈りを行う。

(3) 水田内で穂をつけたヒエ類は、カメムシ類の発生を助長するので直ちに取り除く。

(4) 薬剤防除は穂揃期から乳熟初期に行い、その後も発生が多い場合は7～10日間隔で1～2回の追加防除を行う。防除は地域一斉で行うと効果が高い。なお、出穂前の防除は効果が期待できない。

(5) アカスジカスミカメは登熟初期の加害が中心であるが、クモヘリカメムシ、トゲシラホシカメムシなどは登熟後期まで加害する傾向にあるので、防除後の発生に特に注意する。

(6) 使用薬剤は表3を参照とする。なお、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業者の安全の確保に努める。

表1 水田周辺のイネ科雑草地などにおける調査結果(調査日:7月11~14日)

地区	年 (地点数)	項目	種 類									合計
			アカジ	ホミドリ	ホハリ	トゲシ	シホシ	クヘリ	ムギ	クアジ	その他	
東 部	H17 (27)	平均成幼虫数(頭)	118.4	2.4	3.5	0.6	0.1	5.1	0.1	3.9	1.8	135.9
		最大成幼虫数(頭)	777.0	21.5	15.0	4.0	1.0	39.0	1.8	97.0	20.0	
		発生地点率(%)	100.0%	44.4%	70.4%	44.4%	22.2%	51.9%	7.4%	14.8%	55.6%	
	平年	平均成幼虫数(頭)	80.5	6.8	3.2	0.7	0.2	9.1	2.7	4.2	1.0	108.3
中 部	H17 (13)	平均成幼虫数(頭)	105.5	4.4	3.2	1.4	1.1	2.6	0	0.3	1.6	120.1
		最大成幼虫数(頭)	401.0	20.0	7.0	4.0	14.0	9.0	0	3.0	10.0	
		発生地点率(%)	100.0%	46.2%	84.6%	61.5%	15.4%	46.2%	0%	23.1%	61.5%	
	平年	平均成幼虫数(頭)	91.0	6.6	2.5	0.2	0.3	10.3	12.1	3.2	1.9	127.6
西 部	H17 (13)	平均成幼虫数(頭)	206.6	2.5	4.7	0.2	0.6	9.9	0	0.4	1.5	226.4
		最大成幼虫数(頭)	830.7	10.5	10.8	1.0	3.0	43.7	0	4.0	5.5	
		発生地点率(%)	100.0%	69.2%	92.3%	30.8%	38.5%	69.2%	0	23.1%	76.9%	
	平年	平均成幼虫数(頭)	91.0	6.6	2.5	0.2	0.3	10.3	12.1	3.2	1.9	127.6
県 全 体	H17 (53)	平均成幼虫数(頭)	136.9	2.9	3.7	0.7	0.5	5.7	0.0	2.2	1.6	154.2
		発生地点率(%)	100.0%	50.9%	79.2%	45.3%	24.5%	54.7%	3.8%	18.9%	62.3%	
		平均成幼虫数(頭)	106.8	9.4	2.9	0.5	0.3	7.5	8.0	2.9	1.4	139.6
	平年	発生地点率(%)	94.4%	55.2%	69.0%	30.0%	18.3%	38.2%	36.9%	17.7%		

注) 成幼虫数は10回振りすくい取りの数値。各地点1~3か所調査、地点毎の平均値で集計。  
 アカジはアカジカミカ、ホミドリはホミドリカミカ類、ホハリはホハリカミシ、トゲシはトゲシカミシ、シホシはシホシカミシ、クヘリはクヘリカミシ、ムギはムギカミカ、クアジはクアジカミカ。

表2 出穂した水田における発生状況(7月下旬)

発生ほ場率	平均成幼虫数	最大成幼虫数	4頭以上の発生ほ場率
90.0%	27.9頭	68頭	70.0%

表3 主な防除薬剤

薬剤系統	薬剤名	10a当たり使用量	収穫前日数	使用回数
クロロニコチル系	アドマイヤー粉剤DL	4 kg	21	2
	ベストガード粉剤DL	4 kg	14	4
有機リン系	エルサン粉剤3DL	3~4 kg	7	3
	スミチオン粉剤、(2%,3%)	3~4 kg	14	3 (出穂前1回)
	バイジット粉剤2、同2DL	3~4 kg	21	2
ピレスロイド系	トレボン粉剤DL	3~4 kg	7	3
	Mr.ジョーカー粉剤DL	3~4 kg	7	2
ネオニコチノイド系	ダントツ粉剤DL	3~4 kg	14	3
	スタークル粉剤DL、アルパリン粉剤DL	3 kg	7	3